

3月29日

テーマ：「戸の外に立ってたたかれる主」

聖書箇所：黙示録3章20節

◆今日のみことば

見よ。わたしは、戸の外に立ってたたく。だれでも、わたしの声を聞いて戸をあけるなら、わたしは、彼のところに入って、彼とともに食事をし、彼もわたしとともに食事をする。

黙示録3章20節

◆メッセージ

ラオデキヤは、商売の中心地として栄えていた都市で、そこに暮らす人たちは、何不自由のない、豊かな生活をしていました。しかし、時に豊かさは、人に「神さまなんていなくても大丈夫だ」と思わせることがあります。ラオデキヤの教会のクリスチャンたちもそうだったようです。彼らは、イエスさまを信じると言いながら、実際にはイエスさまのみことばより自分の考えや思いを先にした生活をしている、神さまのことばに従って生きていない、そんな中途半端な信仰の歩みをしていました。豊かさで心の満たされていた彼らは、心の中からイエスさまを追い出してしまうたのです。

私たちも同じようなところはないでしょうか。毎週教会に行き、お祈りして、みことばを聞いていても、聞いたみことばの通りに歩んでいないことはないでしょうか。心のどこかで、「ここは自分でできる。イエスさまがいなくたって大丈夫」と思っていないでしょうか。そうやって、自分の心からイエスさまを追い出していないでしょうか。



でも、そんな私たちであっても、イエスさまは愛してくださっています。愛しているからこそ、時にイエスさまは、私たちをしかったり、懲らしめたりします。そうやって、私たちが閉じてしまっている心の扉を叩いて、私たちがイエスさまから離れてしまっていることに気づかせようとしておられるのです。私たちは、辛いとき、苦しいときにこそ、イエスさまが扉を叩いておられることを思い出して、イエスさまを心にお迎えしましょう。そして、イエスさまと一緒に歩いていきましょう。



◆お祈り

「私がイエスさまのことを忘れてしまっても、いつもイエスさまは私の心の扉を叩いてくださっていますから、ありがとうございます。イエスさまを心にお迎えして、イエスさまと歩んでいくことができますように。」

(豊橋福音聖書教会伝道師 井上慎治)